

## メッセージ 6

使徒たちの教えを守ることによって、主の回復の現在のビジョンに緊密に従い、  
一の本質の中にとどまる

聖書： I テモテ1:3-4. テトス1:9. ローマ15:6. I コリント1:10.  
ヨハネ17:11, 21-23

- I. わたしたちは、使徒たちの教え、すなわち、神の永遠のエコノミーの教えを守ることによって、主の回復の現在のビジョンに緊密に従わなければなりません。この教えが、同じ心・思いを維持する要因です——テトス1:9. 使徒2:42前半, 46前半. I テモテ1:3-4. 4:6. II テモテ3:10. エペソ1:10. 3:9:
- A. 全聖書における神の中心的なビジョンは、神のエコノミーのビジョンです。それは、神が彼の神聖な三一を通して、ご自身を人の中に造り込み、それによって人がキリストの豊富を享受し、彼の肢体となり、キリストのからだへと構成されて、三一の神を表現することです——8-11, 16-21節. 4:4-6。
- B. 主の回復における一つの事、唯一の事は、神の永遠のエコノミーであり、キリストがその中心性と普遍性です——コロサイ3:10-11。
- C. 神の永遠のエコノミーの内容は、キリストです。実は、三つの時期の彼の満ち満ちた務めにおけるキリストご自身が、神聖なエコノミーです——ヨハネ1:14. I コリント15:45後半. 啓1:4. 3:1. 4:5. 5:6:
1. キリストは、神のエコノミーの大いなる車輪の車軸(中心)、スポーク(支え)、輪縁(外縁)です——コロサイ1:17. エゼキエル1:15。
  2. わたしたちの思考は、キリストの認識と経験についての卓越性に焦点を合わせるべきです。この「一つの事」以外のものに焦点を合わせることは、わたしたちに異なる事を考えさせ、こうしてわたしたちの間に不和を作り出します——ピリピ2:2. 3:8, 12-14. ルカ10:41後半-42. 詩27:4。
- D. 神の永遠のエコノミーの唯一の教え以外のさまざまな奇妙な教えは、いつもサタンによって利用されて、召会の中に不和や、さらには分裂さえも引き起こします——ヘブル13:9前半. I テモテ1:3-4. 6:3-4。
- E. どんな教えであっても、たとえ聖書の教えであっても、それがわたしたちをキリストと召会から引き離すなら、それは神の中心的な定められた御旨からわたしたちを運び去る風です——エペソ4:14:

1. わたしたちの教える事は、それが聖書的であるかどうかによって計られるべきではなく、それが分裂的であるかどうかによって計られなければなりません。
  2. 教える風は、ある信徒たちの信心を覆し、キリストのからだの建造を妨げ、キリストの有機的なからだの肢体を分裂させます——Ⅱテモテ 2:18. Ⅰコリント 1:10-11。
- F. 主の回復において、焦点を合わせ、強調し、供給すべき一つの事とは、神の永遠のエコノミーです。ただ一種類の務めだけが建造し、決して分裂させません。これが神のエコノミーの唯一の務めです——Ⅰテモテ 1:3-4:
1. 「人の高ぶりは、常に自己を他の人と異ならせることを好みます。あなたは一つの事を語るかもしれませんが、わたしは自分の高ぶりのゆえに、あなたの語る事を決して語らないでしょう。わたしは、あなたの語る事とは異なる事、新しい事、もっと良い事を語りたいのです。これは自己であり、これは肉的な高ぶりです」(神聖なエコノミー、第14章)。
  2. わたしたちが一人の新しい人のために、永遠の一の中に保たれることのできる唯一の道は、同じ事、すなわち、神のエコノミーを教えることです。——ローマ 15:6。
- Ⅱ. わたしたちは、エペソ第2章15節の「一人の新しい人」を、ローマ第15章6節の「一つの口」とⅠコリント第1章10節の「同じ事を語り」と共に考慮する必要があります:
- A. 一人の新しい人としての召会のために、わたしたちはみな、語ることに於いてキリストをわたしたちのパーソンとする必要があります——マタイ 12:34-37. エペソ 3:17前半. ヨハネ 7:16-18. 8:28, 38前半. 12:49-50. 14:10。
  - B. 一人の新しい人がいるだけであり、一人の新しい人にはただ一つのパーソンがあるだけです。ですから、一人の新しい人は、一つの口をもって語り、同じ事を語ります——コロサイ 3:10-11. ヘブル 1:1-2前半. 参照、創 11:7, 9。
  - C. 「一つ心をもって」と「一つの口で」(ローマ 15:6)の意味は、わたしたちの数が多く、みなが発言者としても、わたしたちはみな「同じ事を語る」(Ⅰコリント 1:10)ということです。
  - D. 召会は一人の新しい人であり、ただ一つのパーソン、キリストを持っています。このパーソンが、わたしたちの語りかけを支配します。こうい

うわけで、彼が語る事は何であれ、必ず「同じ事」です。

E. 一人の新しい人には、ただ一つのパーソンがあるだけです。このパーソンだけが、語る自由を持っています——マタイ17:5:

1. 一人の新しい人の中では、わたしたちが自分自身の事を語る自由はありません。
2. 主イエスには、語る自由が絶対的にあります。わたしたちの天然の人には、語る自由が絶対的にありません。

F. わたしたちは数が多く、多くの場所から来ていますが、わたしたちはみな一つの口を持っており、同じ事を語ります。こういうわけで、わたしたちはみな一人の新しい人であり、ただ一つのパーソンを持っています——エペソ2:15, 4:22-24, 3:17前半, IIコリント2:10。

### Ⅲ. 神のエコノミーにおける一は、命と光によって保たれます。命と光が一の本質です:

A. エゼキエル第37章が啓示していることは、わたしたちが一の中で共に集まるとき、わたしたちは神の息を命として受け、また神の語りかけを光として受けるということです——1-14節:

1. 真の一の中でキリストのからだを持つ唯一の道は、命の道です——マタイ7:13-14, 啓22:1, ヨハネ10:10前半, 1:4, 8:12, コロサイ2:19。
2. 神は一の立場において、集会の天幕から語ります。彼の語りかけは光をもたらし、光は命を生み出します。わたしたちが光を持っているのは、わたしたちが一の立場にいるからです——レビ1:1, 出25:22, 参照、ローマ3:25。
3. 光、命、一は、一つの循環です。光が多ければ多いほど、さらに命が多くなるようになります。命が多ければ多いほど、さらに一があるようになります。一があればあるほど、さらに光が多くなるようになります——Iヨハネ1:1-9。

B. 詩篇第133篇は言っていますが、「そこに」、すなわち、一の上に、主は祝福を、すなわち、永遠の命を命じます。もしわたしたちが一の中にとどまろうとするなら、命の中にとどまらなければなりません。なぜなら、命が一を維持するからです——3節。

C. ヨハネ第17章が啓示していることは、一の本質が命と光であるということです:

1. 御父の御名の中で守られることは、彼の命によって、また彼の命の中で守られることです。御父から生まれて、御父の命を持っている者たちだけが、御父の御名にあずかることができます——11節。

2. 御父の言葉、すなわち、真理の中で聖別されることは、光の事柄です。聖別する真理は、光の輝きであり、この光の輝きによってわたしたちは、自己から出てきて、三一の神の中へと入ります——17, 21節。
  3. 御父の栄光の中で成就されることは、団体的で建造された方法で、栄光の神についての享受の中へともたらされ、三一の神の一へと到達し、彼の光り輝く表現となることです——22-23節. エペソ4:11-13。
- D. 啓示録第21章と第22章が啓示していることは、命と光が新エルサレムの一の本質であるということです——21:23. 22:1-2, 14, 17。
- IV. 一はわたしたちを悪から守りますが、分裂は悪へと門を開きます：**
- A. 一は、すべてを含んでいます。それは父なる神、主なるキリスト、命を与える方としてのその霊、あらゆる積極的な祝福を含んでいます——詩第133篇. エペソ1:3. 4:4-6。
  - B. 分裂は、すべてを含んでいます。それはサタン、罪、この世的であること、肉、自己、古い人、不機嫌さ、あらゆる消極的なものを含んでいます——ローマ16:17-18. ユダ19節。
  - C. 新エルサレムは、一の究極的完成であり、またその中に含まれるすべての積極的なものの究極的完成です。しかし、火の池は、分裂の究極的な貯蔵所であり、またその中に含まれるすべての消極的なものの究極的な貯蔵所です——啓21:2. 20:10。
- V. わたしたちは一の本質の中にとどまるために、自己の選択と自己の好みを拒絶しなければなりません。神の民の間の分裂は、異なるえり好みを持つことの結果です——申12:5, 8, 13, 17. Iコリント1:10-12：**
- A. イスラエルの子たちは、彼らの選んだ場所で神を礼拝したり、ささげ物を享受することが許されていませんでした。これは、神の民の一を守って、こうして人のえり好みによって引き起こされる分裂を避けるためでした——申12:8, 13, 17. 参照、ヨハネ4:24. エペソ4:3. Iコリント1:10。
  - B. 良き地の分配において、ルベンとガドは、自分たちの地の分け前に関して自分自身の選択をしました——民32:1-22：
    1. 最終的に、彼らは自分自身の選択にしたがって行動したので、彼らの地は、イスラエルの土地の中で、東からやって来た異邦人の侵略者によって奪い取られた最初の部分となりました——歴代上5:25-26。
    2. 霊的な事柄においては、わたしたちの選択にしたがって行動せずに、物事を主の御手の中にゆだね、彼の選択にしたがって、彼の行ないたい事を彼に行なっていただくほうが、はるかに良いのです。わたした

ちは、自分の選択が最上であると思うかもしれませんが、実はそれは最悪なのです——参照、創13:5-18。

3. 二つの部族は、自分たちの持っていたもの(極めて多くの家畜——民32:1)のゆえに、また自分たちの見たもの(家畜のために良い土地——4節)のゆえに、要求をしました——4節：
  - a. これが示していることは、自己の選択が二つの事からやって来るといことです。すなわち、わたしたちの持っているものと必要とするものとの考慮すること、またわたしたちの前に見えるある種の状況や機会が、いかにわたしたちの必要に適合するかを考慮することです。
  - b. わたしたちは召会生活の中で、また主の働きの中で、自分自身の利益を顧みるために自己の選択をするという誘惑を、拒絶しなければなりません。
4. 主に奉仕することにおいて、わたしたちが学ぶ必要のあることは、自分自身の選択を放棄して、神と神の民に対して自らに責任を負わせるのを避けることです——22節。
5. ルベンとガドは、イスラエルの子たちの一団と共にヨルダン川を渡って良き地の約束を受けることをしませんでした。これが表徴していることは、わたしたちの古い人が対処されておらず、埋葬されていないこと、またわたしたちがキリストのからだなしに、個別にキリストの享受を受けているということです。
6. わたしたちは、ルベンとガドの例に従わないことと、また自分たちのために主に選択をしていただいた他の部族の模範に従うことを、学ばなければなりません。わたしたちは自分の行なうすべての事において、からだの感覚を持ち、からだを中心としなければなりません：
  - a. それぞれの地方召会には、それ自身の行政があります。しかし、一つの地方召会は何を行なおうとも、その事が、からだ全体の地方的な表現としての他の諸召会に対してどのような影響を与えるかについて、注意深い考慮をもって行なわなければなりません。
  - b. わたしたちはみな見なければなりません、わたしたちがここにいるのは主の回復のためであり、また主の回復は、主が彼の一つの務めによって持つ一つの動きであり、それは彼の唯一のからだを生み出して、彼の唯一の証しとならせることです。